

SOPHIA U

**2025年度春学期
大学授業アンケート集計・分析報告**

FD委員会・IR推進室



1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



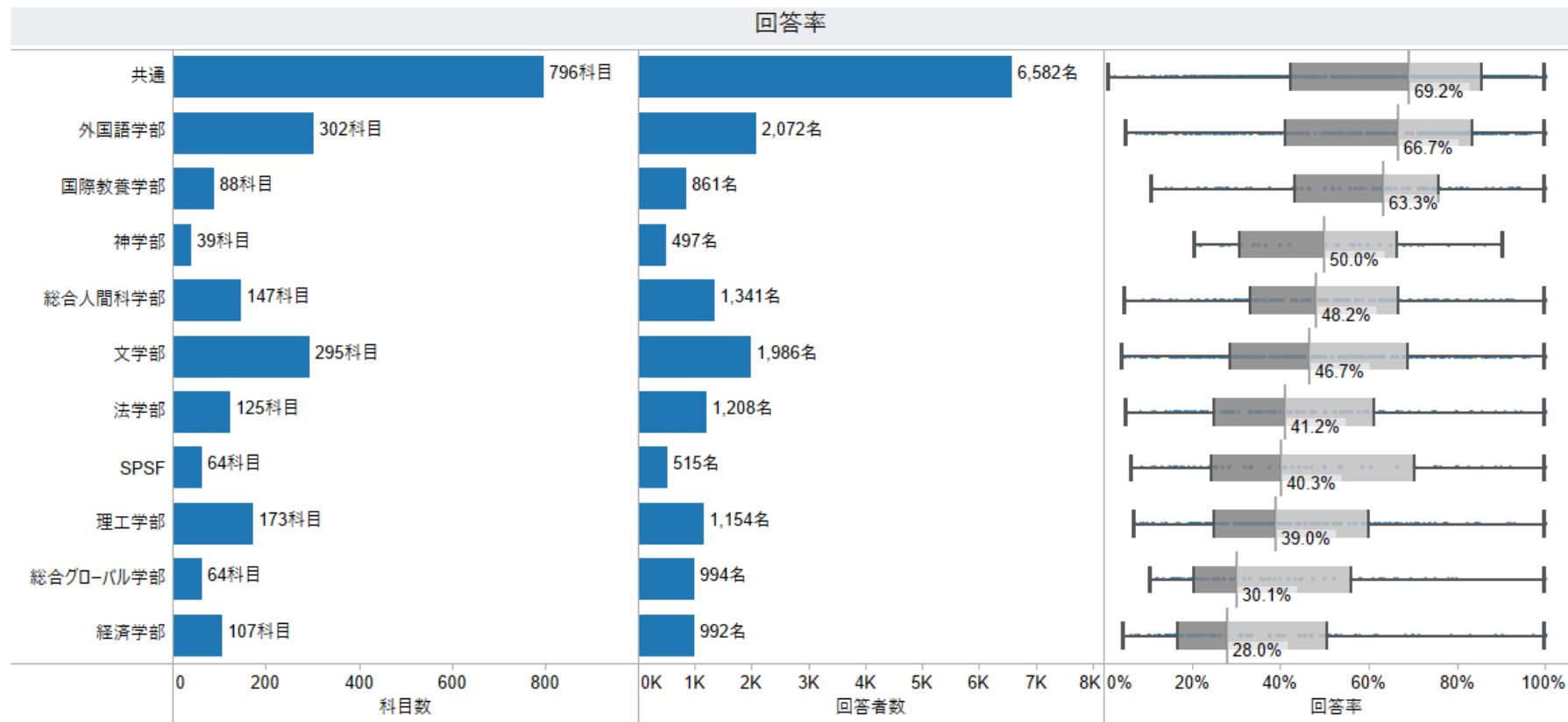
1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



設問一覧

- 設問1 この授業における教員の説明はわかりやすかった。
- 設問2 この授業に対する教員の意欲を感じた。
- 設問3 教員との質疑応答や教員からのフィードバックの機会があった。
- 設問4 学生同士で議論を行ったり、プレゼンテーションをしたりする等のアクティブ・ラーニングの機会（オンライン掲示板等含む）があった。
- 設問5 学修した内容が在学中もしくは卒業後にどのように応用されるかを学ぶ機会があった。
- 設問6 知識を相互に結びつけることにより、多様なものの見方や考え方が身につく授業だった。
- 設問7 他者や自分の意見を十分に吟味して客観的・論理的に思考する力（クリティカル・シンキング）が身につく授業だった。
- 設問8 私はこの授業で主体的に（自分なりの目的を意識して持続的に）取り組んだ。
- 設問9 この授業はシラバスに沿って実施された。
- 設問10シラバスで示されたこの授業の到達目標が身についた。
- 設問11この授業を受けて知的に刺激され、深く勉強したくなった。
- 設問12この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の精読等も含む）は、どれくらいですか。
- 設問13この授業の満足度を教えてください。

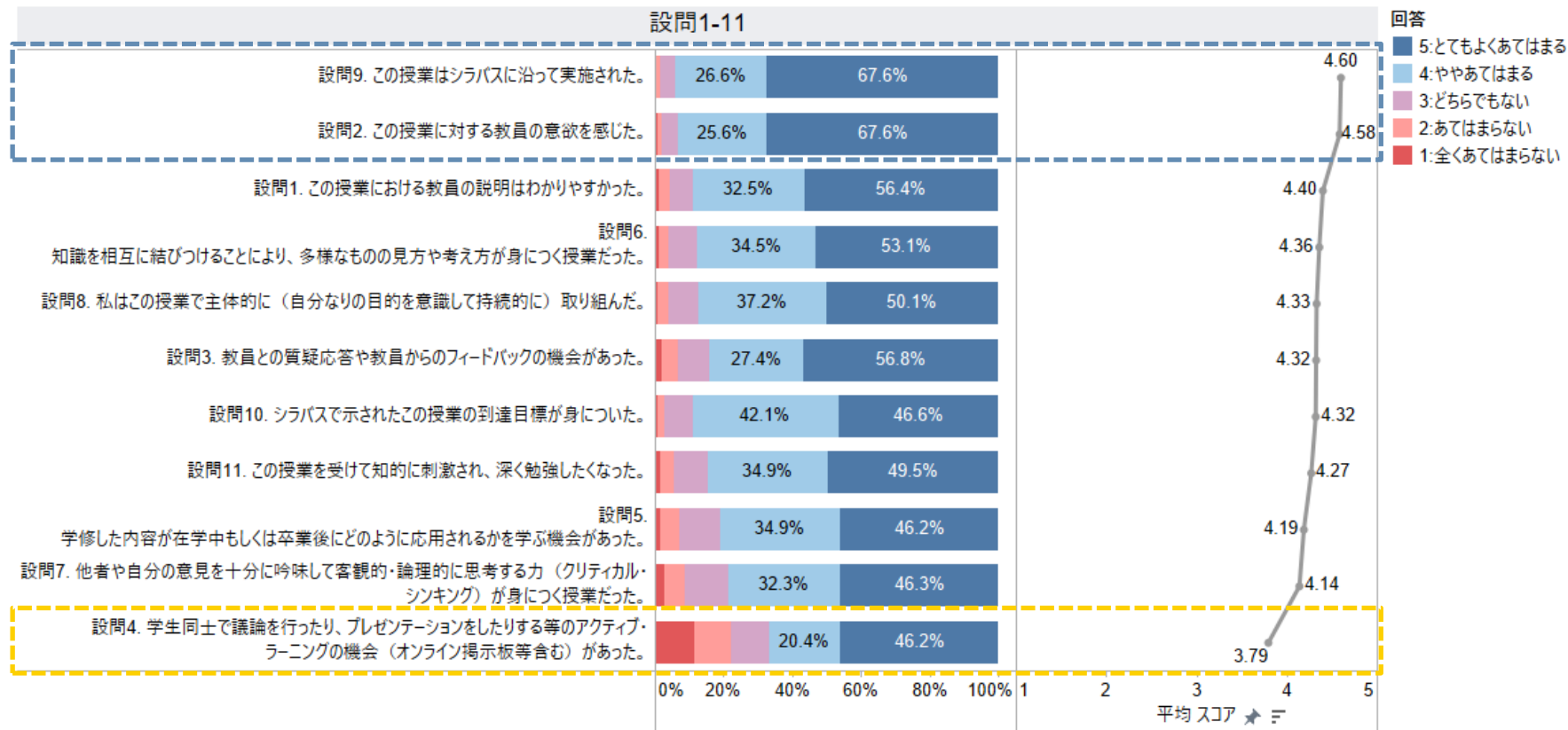
全体の回答率は46.9%。学部によってバラツキが大きい。



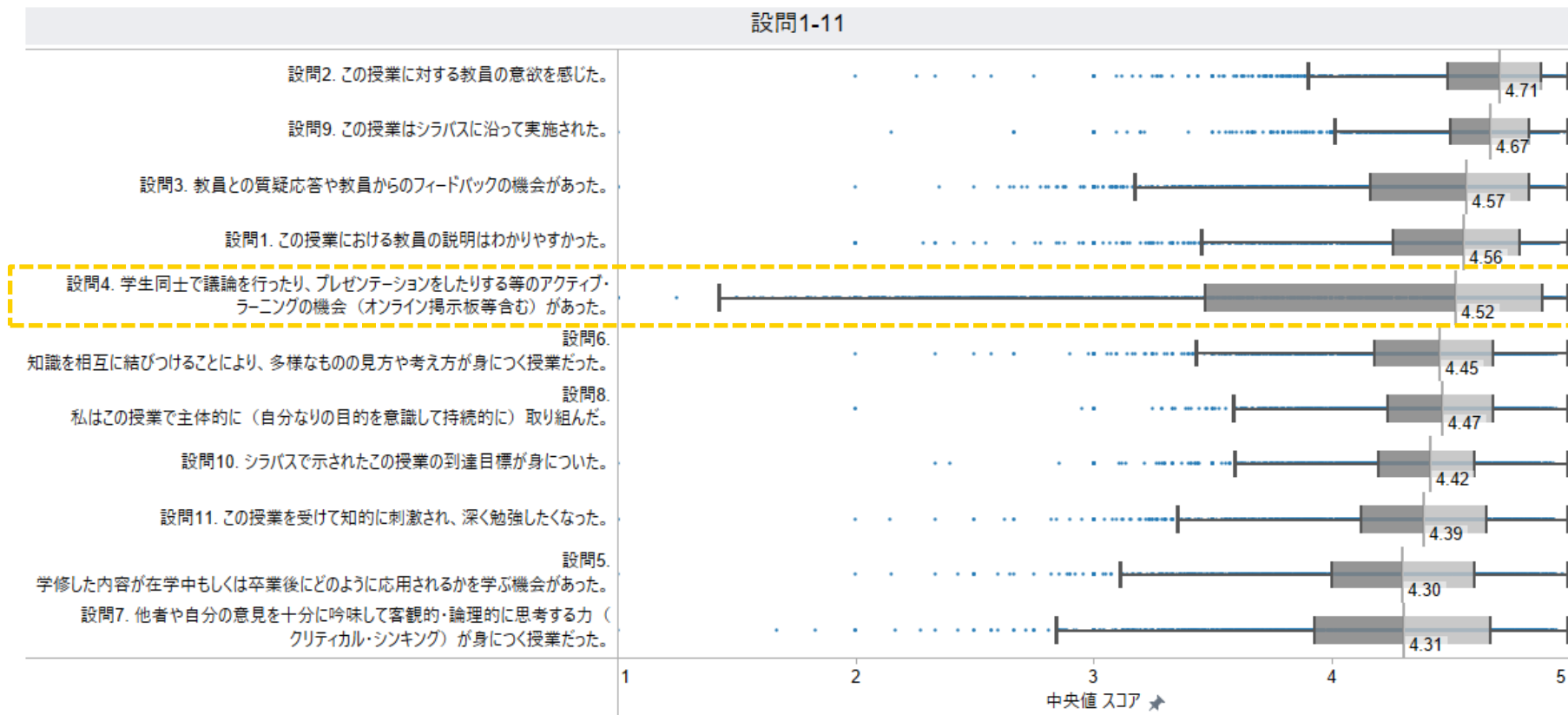
1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



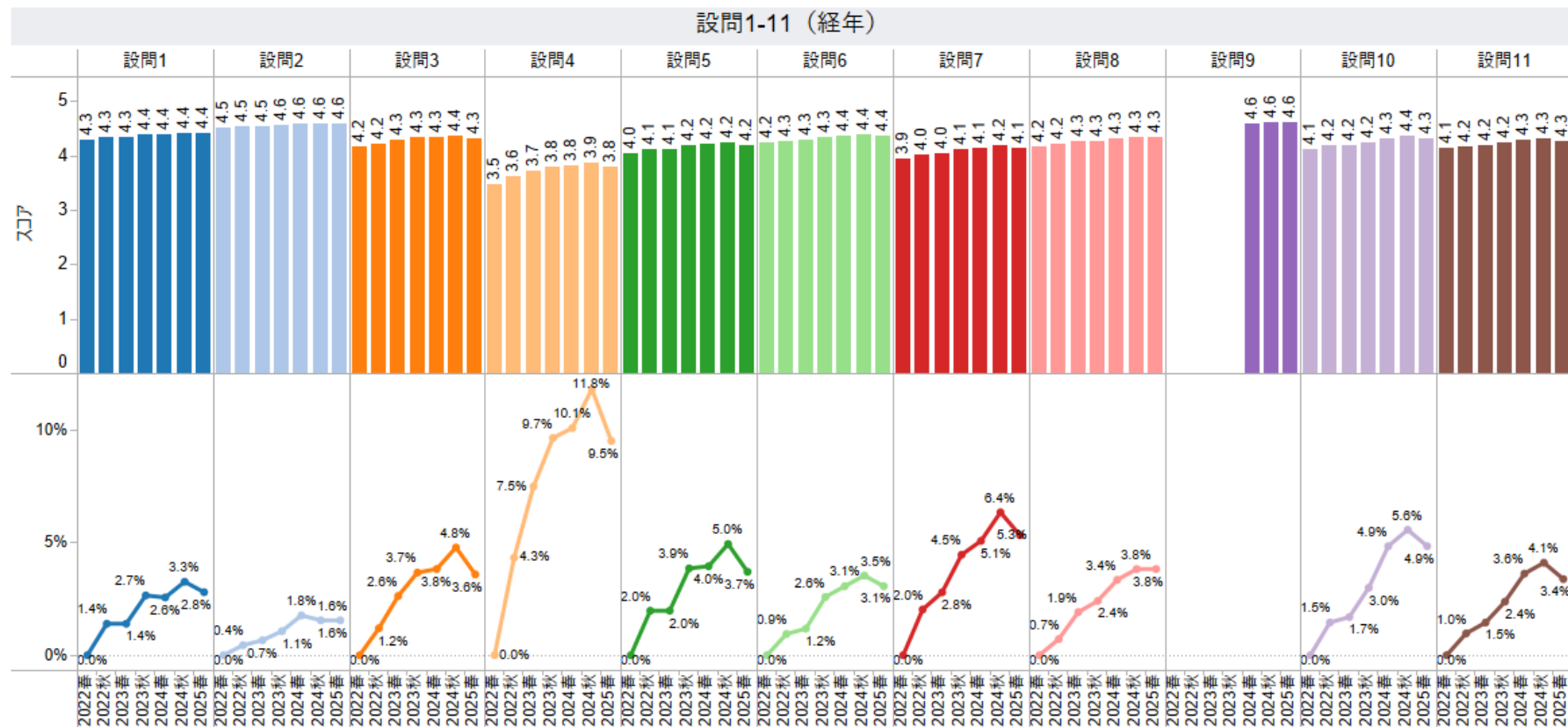
設問9「シラバスに沿っていた」 設問2「教員の意欲」がとくに高評価。
 設問4「ALの機会」の平均が低い。



中央値でみると設問4「ALの機会」はそれほど低くなく、バラツキが非常に大きい。

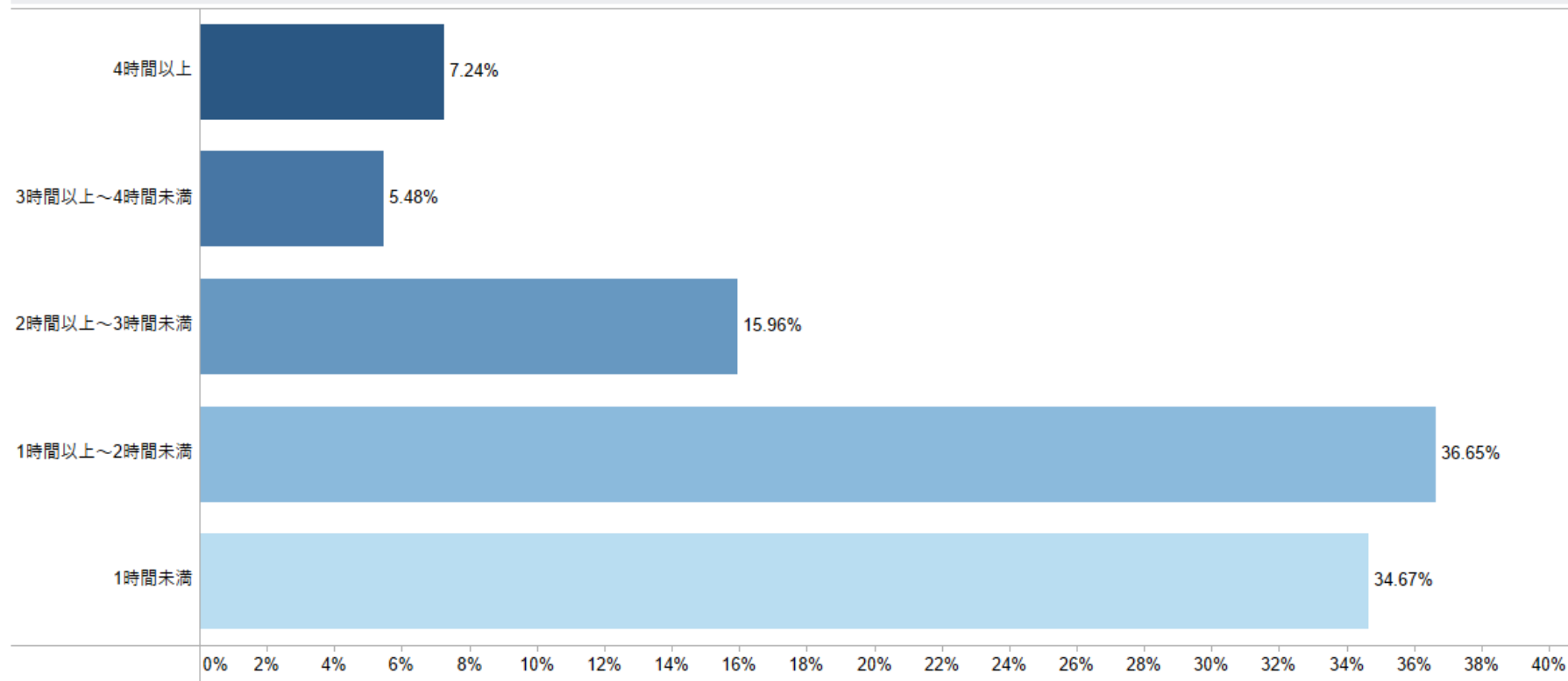


2024秋と比較して、若干スコアの伸びが停滞。天井効果か。

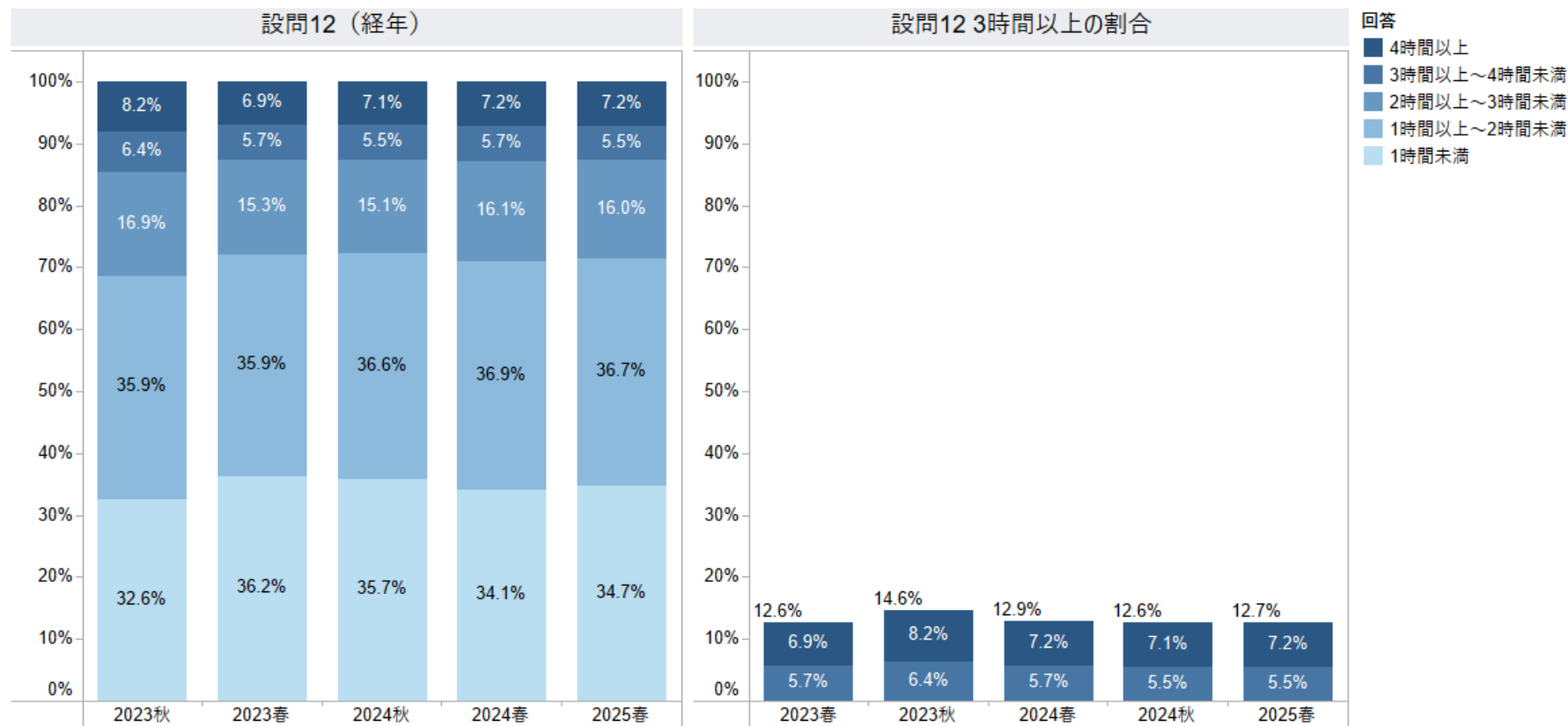


3時間以上の授業外学修時間をした学生は12.7%

設問12. この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の精読等も含む）は、どれくらいですか。

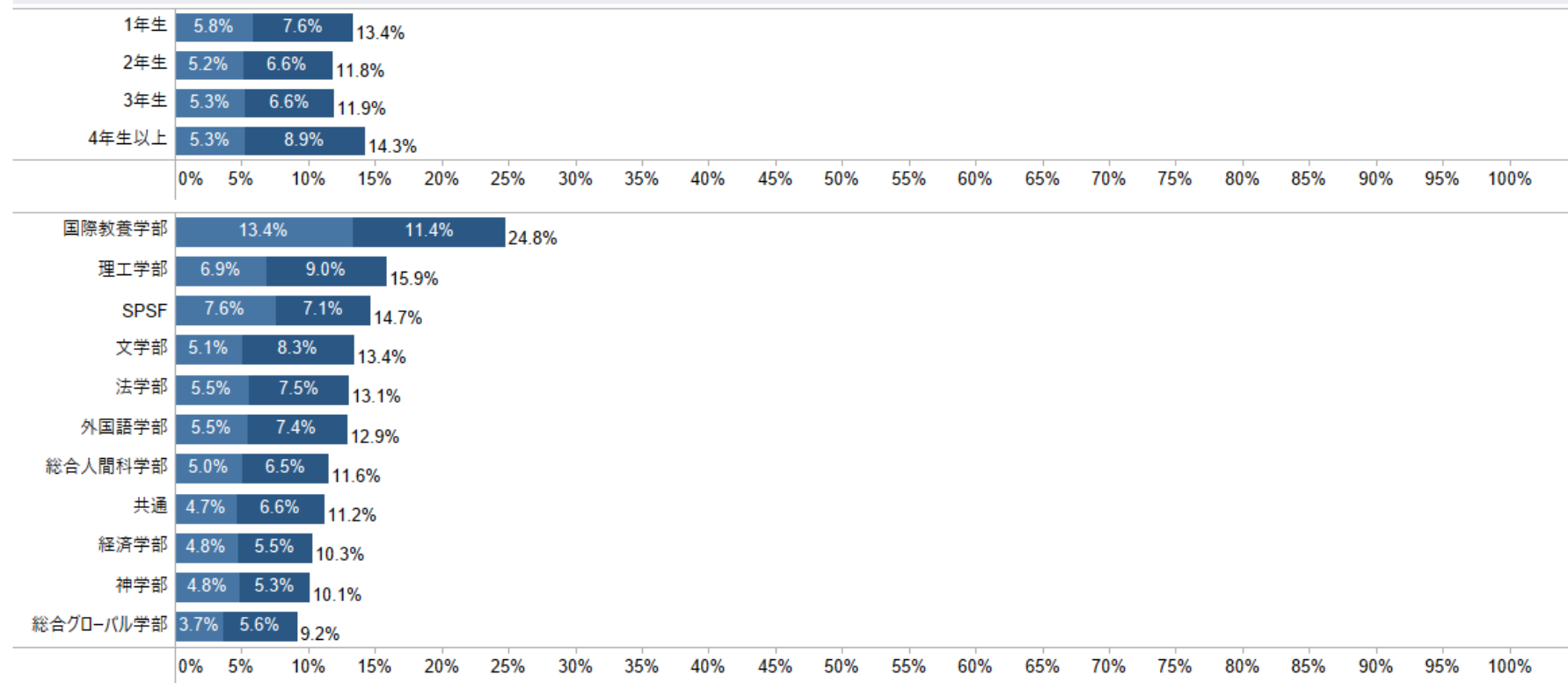


授業外学修時間は経年での変化がほとんどない。



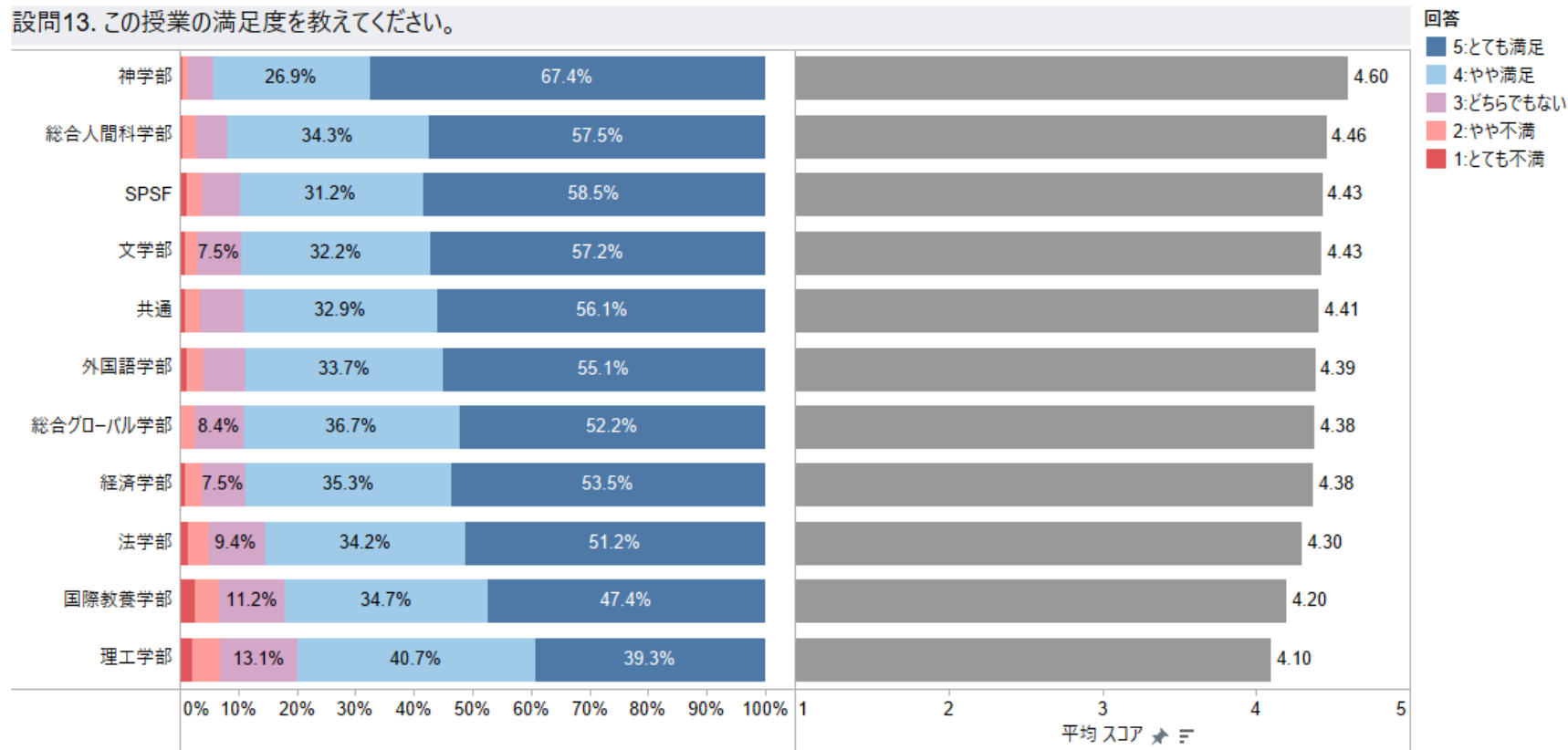
1年生と4年生で、またFLAで3時間以上の割合が高い。

設問12. この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の精読等も含む）は、どれくらいですか。



設問13「満足度」はおおむね良好。学部間の差もほとんどない。

設問13. この授業の満足度を教えてください。



1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



(生成AIによる分析) 設問14「この授業の良い点があったら教えてください。」

1. 説明の明瞭さ・構成 (18.6%)

- 具体例や比喻を多く交え、噛み砕いた説明で理解が進んだ。
- 口頭説明とテキスト／フィードバックが連動しており、学習の定着に役立った。

2. 内容の実用性・興味 (13.2%)

- 扱うテーマが時事・実社会に結びつき、知的好奇心が刺激された。
- 異なる立場・視点の提示で、ものの見方が広がった。

3. 双方向性・コミュニケーション (13.1%)

- グループディスカッションで多様な意見に触れ、考えが深まった。
- 共同作業や対話によって、理解が表層から深層へと進んだ。

4. 課題・評価・フィードバック (10.4%)

- リアクションペーパー等への丁寧な個別フィードバックが学びの循環を生んだ。
- オンライン提出など取り組みやすい設計で継続しやすかった。

5. 資料・補助教材・録画 (5.9%)

- 参考文献や一次資料の紹介が理解の補助になった。
- スライドと板書等の使い分けが視覚的にわかりやすかった。

(生成AIによる分析) **設問15**「この授業の改善が必要と思う点があったら教えてください。」

1. 課題・評価・フィードバック (17.1%)

- 事前に評価基準や期待水準を明示してほしい。
- 課題の難易度・分量が高く、サンプルや支援の提示が欲しい。

2. 資料・補助教材・録画 (8.6%)

- スライドを簡潔にし、目次や見出しで構造化してほしい。
- 要点をまとめたレジュメ／要約資料があると助かる。

3. 説明の明瞭さ・構成 (8.6%)

- 専門用語の導入時は背景説明を添え、説明速度も調整してほしい。
- 提出物のフォーマットや完成例を共有してほしい。

4. 双方向性・コミュニケーション (6.6%)

- 一方向の説明が続くので、ディスカッションや質疑の時間を増やしてほしい。
- グループワークの時間配分や問いのレベルを最適化してほしい。

5. 連絡・LMS運用 (6.1%)

- 提出後に自分の回答が確認できず不安。閲覧・保存方法の見直しを。
- 締切が重なる週があり、他科目の課題・試験日程を考慮して余裕のある期限設定にしてほしい。

すぐに実装できる5つのアクション

1. 目標と評価の可視化

- 第1回にルーズリーフと合格例（期待水準）を配布。
- 各回冒頭で到達目標・評価観点・提出物の期待レベルを掲示。

2. 資料設計の軽量化

- スライドは「1枚1メッセージ」+ A4要点レジュメを添付。
- 専門用語は「背景→定義→使用例」で段階的に導入。

3. 双方向スロットの固定化

- 「問い→ペア/小グループ→共有」を固定運用。
- 基礎問いと発展問いの2段階を用意し、参加しやすさを高める。

4. 締切と課題運用の平準化

- 締切は原則「授業日+7日 23:59」、**他科目の課題・試験スケジュールを考慮**して設定。
- 中間・期末の2週間は新規課題を避ける／分量を半減し、学期カレンダーで一括公開。

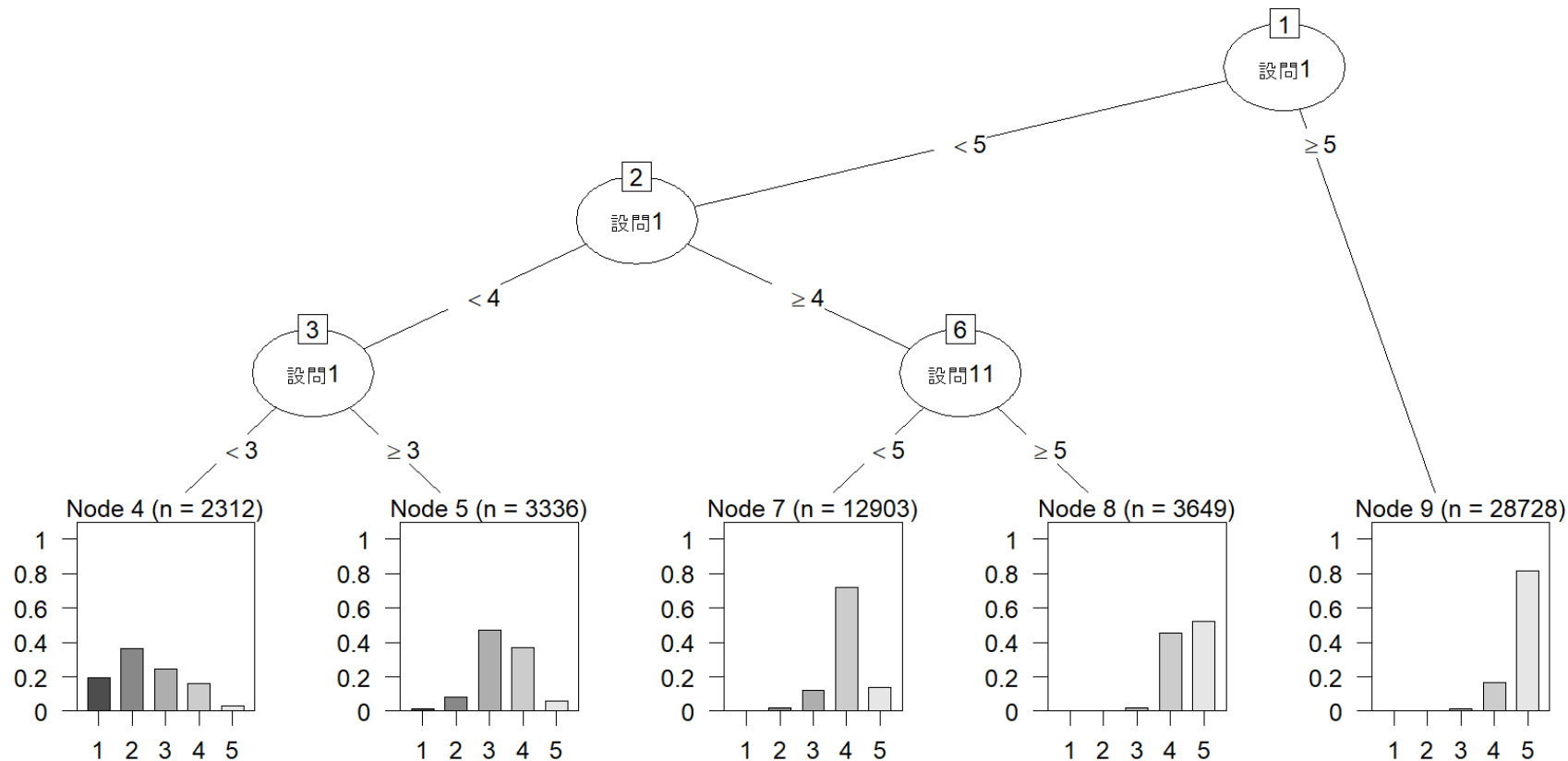
5. 迅速なフィードバックとキャッチアップ

- 提出後72時間以内に代表例+共通講評を掲示。
- 欠席者向けに資料・補助課題・再提出条件をひとまとめで提示。

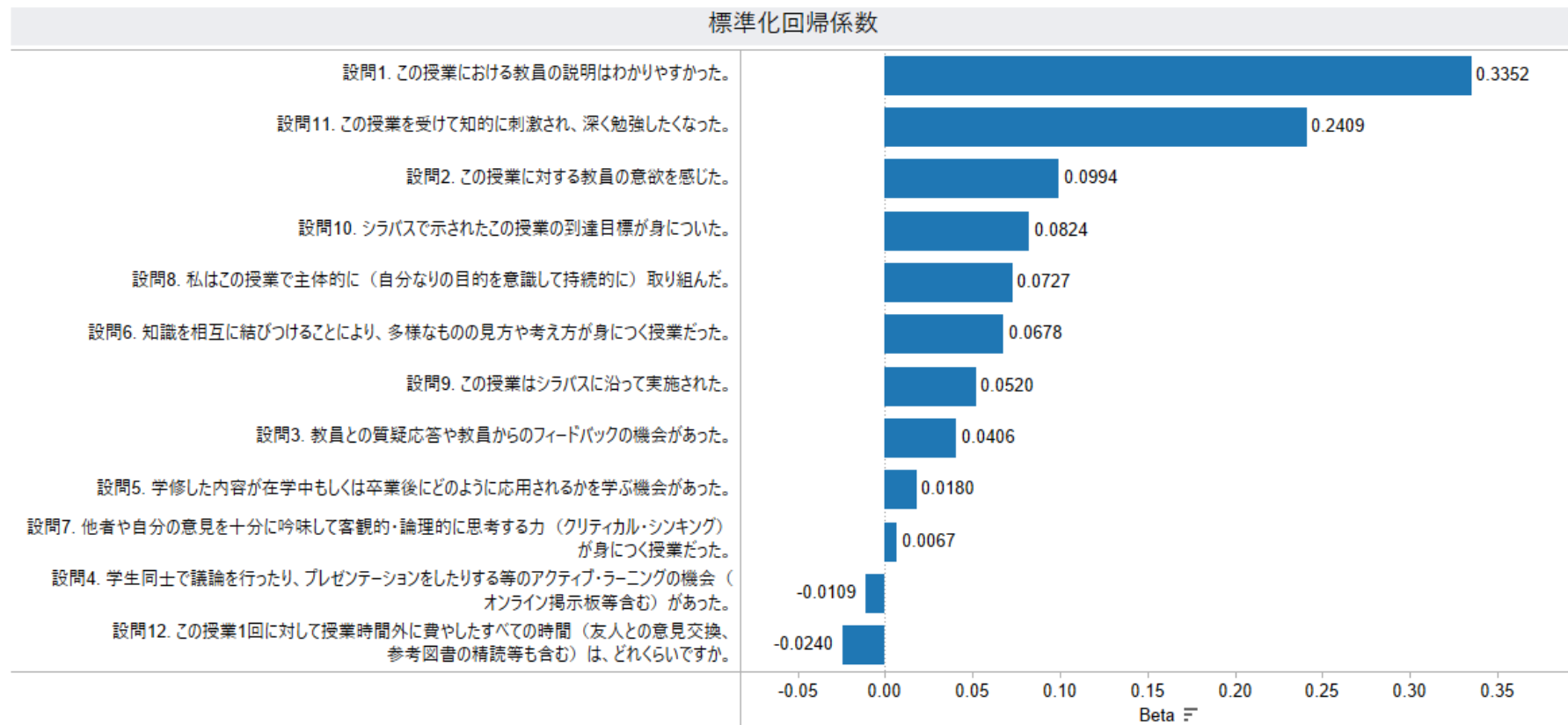
1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



設問1「説明のわかりやすさ」が5点だと満足度が高い。
 設問1が4点でも、設問11「知的刺激」が5点だと満足度が高い。



決定木分析と同様、設問1「説明のわかりやすさ」と設問11「知的刺激」の影響力が大きい。



(生成AIによる分析) 説明がわかりやすく知的刺激を受けたと感じられる授業の特徴

1. 具体例×実社会接続

- 抽象概念が日常・社会の事例と結びつき、理解が腑に落ちた。
- ケーススタディで、授業外でもニュースや身近な出来事に照らして考えるようになった。

2. 図解／スライド×理解促進

- 図解と見出しで論点が可視化され、内容が頭に入りやすかった。
- 資料の構造が明確で、関連領域を自分で深掘りしたくなった。

3. 段階的説明×思考の深まり

- 「背景→定義→例→応用」の順で筋道が見え、自分で論理を組み立てられた。
- 論点のつながりが丁寧で、考えを一段深く掘り下げられた。

4. 定義・背景説明×批判的思考

- キーワードの定義や前提が明確で、鵜呑みにせず妥当性を検討できた。
- 条件や立場を意識する視点が得られ、問い直す癖がついた。

5. ディスカッション×多様な視点

- 他者の考えに触れて理解の抜けや新たな着眼点に気づけた。
- 共有・発表の過程で、自分の思考を言語化・再整理できた。

満足度の向上のために

わかりやすさを高める要素

1. **資料共有／学習サポート**（復習しやすい環境を整えることで、説明の「見通し」が良くなり、理解が深まる）
 - 授業後すぐにスライド配布：授業終了後24時間以内に資料をLMSに掲載し、復習に使えるようにする。
 - 補助レジュメの配布：要点をA4一枚にまとめ、授業中の板書や説明と対応させて配布する。
2. **図解／スライド**（抽象的な定義や関係を目で見える形にし、「要するに」で一行にまとめることで混乱を防ぐ）
 - 見取り図を最初に提示：今日の流れを1枚目に示し、各章で現在地を表示。
 - 図＋一言で定義を整理：難しい概念は図解と「要するに○○」の一行で簡潔に伝える。
3. **段階的説明**（背景→定義→例→応用の流れを踏むことで、学生はどこでつまづいているかを把握しやすくなる）
 - 型を統一：説明は「背景→定義→例→応用」の順に進め、筋道を明示する。
 - 小演習を挿入：例の直後に1～2分の確認問題やペア相談を入れ、理解度をその場で確認する。

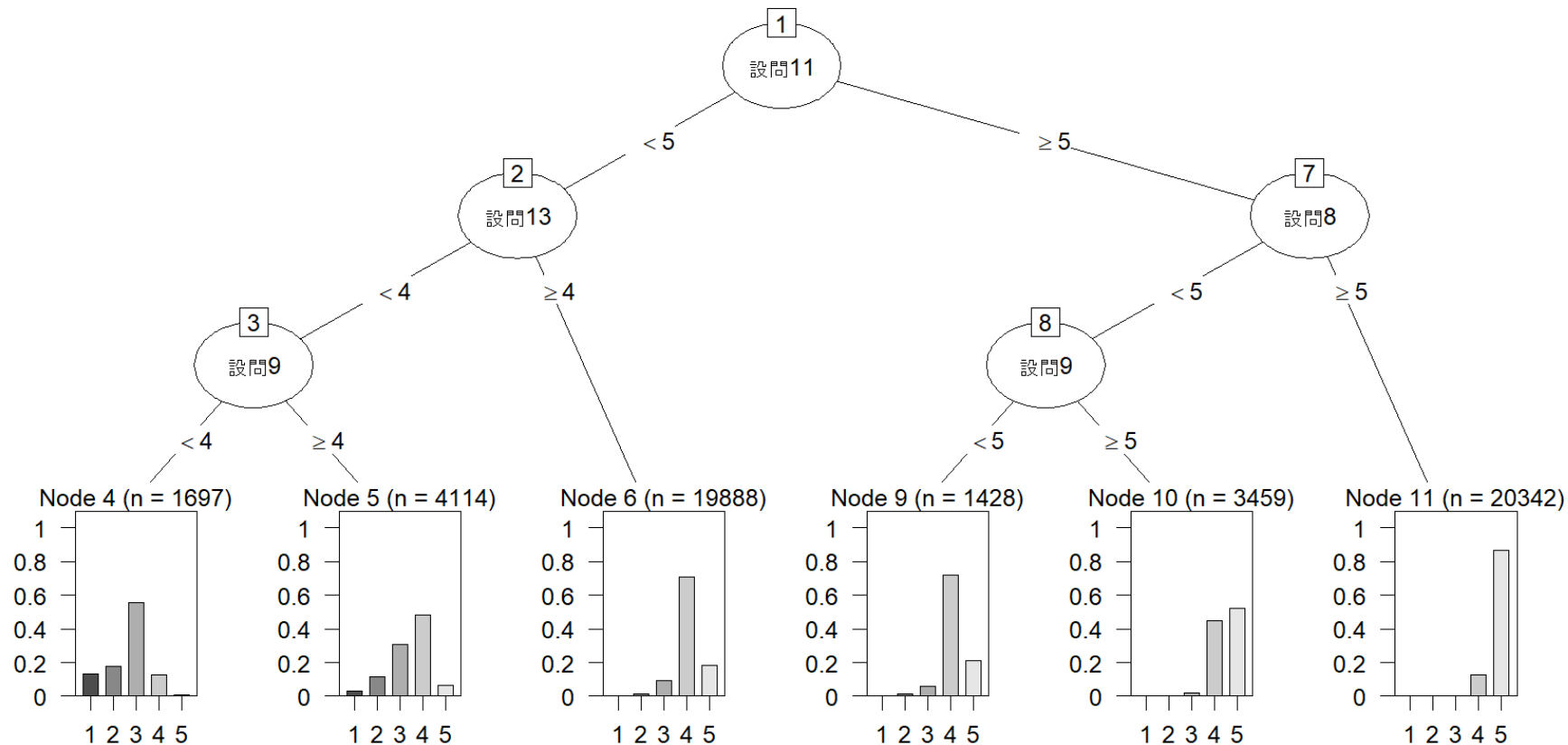
知的刺激を生む要素

4. **課題・評価の明確化**（「どう工夫すればより良くできるか」を考えるきっかけになり、挑戦意欲が生まれる）
 - ルーブリック提示：課題に対して「評価観点（例：内容・根拠・構成・独自性）」を事前に明示する。
 - 見本を提示：過去の合格レベルのサンプルを簡単に示し、到達水準を具体的に共有する。
5. **フィードバックの工夫**（「自分の考えを他と比較する」刺激になり、新しい視点や学び直しのきっかけになる）
 - 迅速な全体講評：提出後72時間以内に、共通の強み・弱みをまとめた講評をLMSに掲載する。
 - 代表例を共有：良い解答と改善が必要な解答を1つずつ紹介し、次に生かせるポイントを示す。

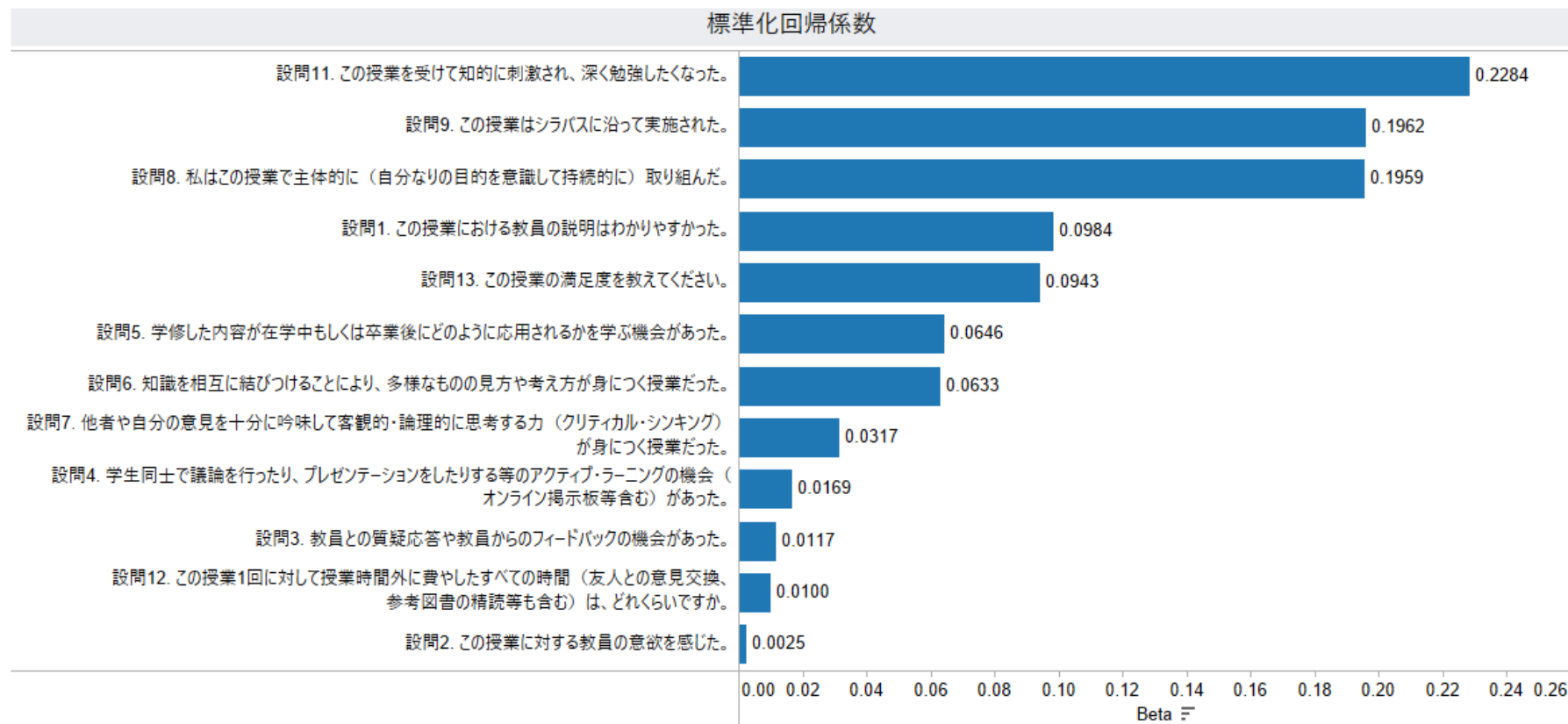
1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



設問11「知的刺激」・設問8「主体的な取り組み」が高い授業は到達目標の達成度が高い。
 設問8が低くても、設問9「シラバスに沿って実施」が高いと到達目標の達成度が高い。



到達目標の達成度には、設問11・設問8・設問9の影響力が高い。



(生成AIによる分析) 知的刺激が高く、シラバスに沿って実施・主体的に取り組んだ授業の特徴

1. 授業進行・シラバス遵守

- 「知的好奇心を刺激される内容で、シラバスに沿った構成で安心して受講できた」
- 「授業全体に一貫したテーマがあり、流れに沿って進むのが面白かった」

2. 主体的な学び

- 「リアクションペーパーのお題が面白く、積極的に考えて取り組めた」
- 「授業で出された問いかけが、自分から調べたり意見を持つきっかけになった」

3. 知的刺激

- 「新しい視点や発見が多く、考えさせられる内容で毎回刺激を受けた」
- 「自分の興味を広げてくれるテーマで、学習意欲が高まった」

4. 説明のわかりやすさ

- 「説明が整理されており、難しい概念も理解しやすかった」
- 「丁寧に噛み砕いて説明してくれるので、興味を持って学べた」

5. 課題・フィードバック

- 「課題を通じて授業内容を実践でき、理解が深まった」
- 「フィードバックが具体的で、自分の改善点が明確になり次につなげられた」

到達目標の達成度の向上のために

1. 授業進行・シラバス遵守

- シラバスに沿った計画的進行：毎回の授業がシラバス通りに展開され、学生は安心して学びを積み上げる。
- 一貫したテーマ提示：授業全体を通して統一されたテーマや流れを維持し、学びの方向性を明確化する。

2. 主体的な学び

- 問いかけによる動機づけ：授業中の質問や課題を工夫し、学生が自ら調べたり意見を持つきっかけを提供。
- リアクションペーパーの工夫：魅力的なお題設定で、学生が楽しみながら積極的に取り組むようになる。

3. 知的刺激

- 新しい視点の導入：既存の知識に加え、別の切り口や他分野との関連を示して、学生の視野を広げる。
- 発見や気づきの場を設計：意外性のある事例や比較を提示し、学生に「考えさせられる」経験を提供する。

4. 説明のわかりやすさ

- 整理された説明構成：複雑な内容も「背景→定義→例→応用」の順で整理し、理解の筋道を示す。
- 噛み砕いた表現：専門用語を平易な言葉や比喩に置き換え、学生がつまづかずに理解できるようにする。

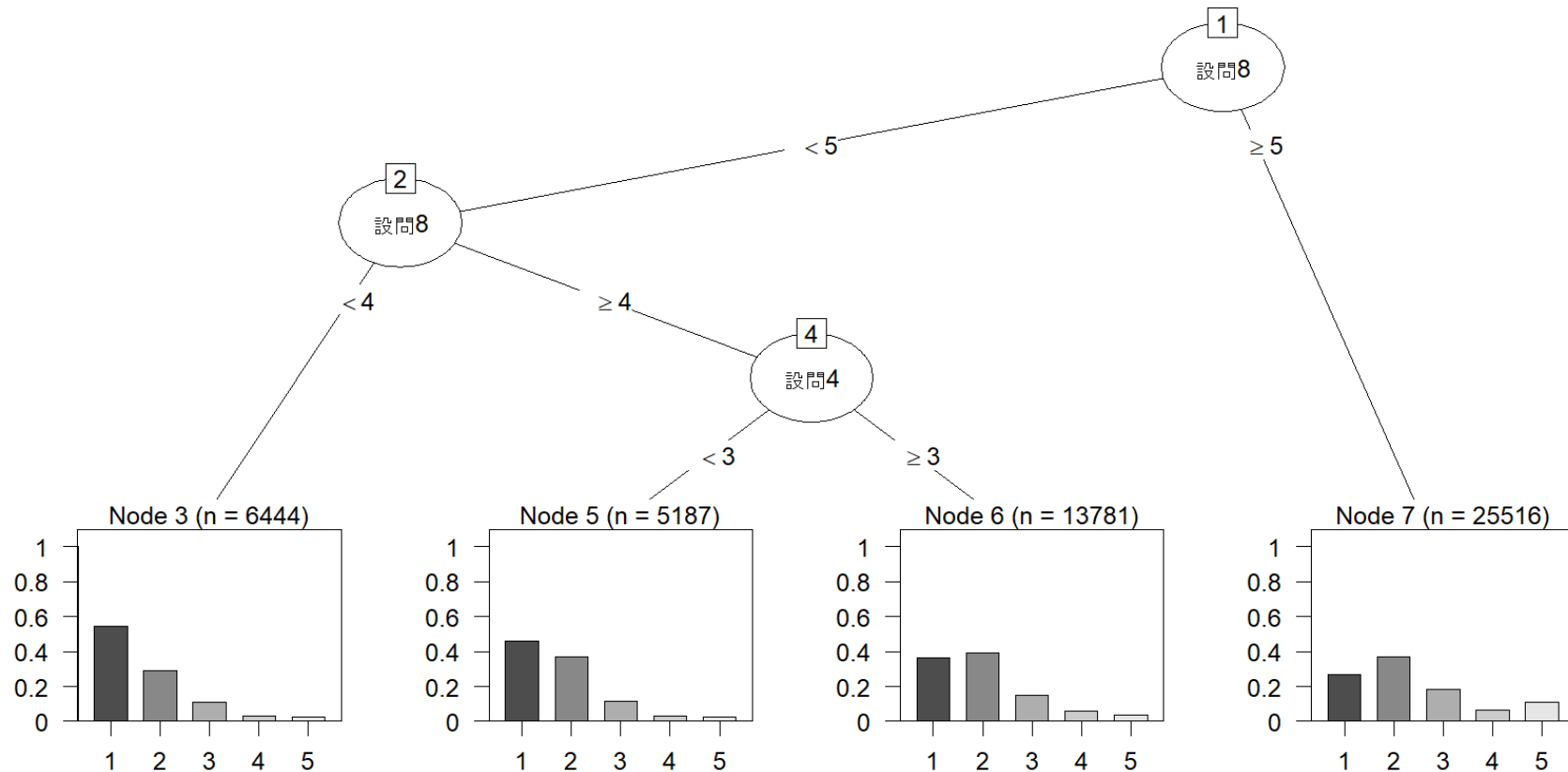
5. 課題・フィードバック

- 実践的な課題設計：授業内容を使って考える課題を出し、理解を定着させる。
- 具体的なフィードバック：代表例や改善点を示し、次回への成長につながるアドバイスを行う。

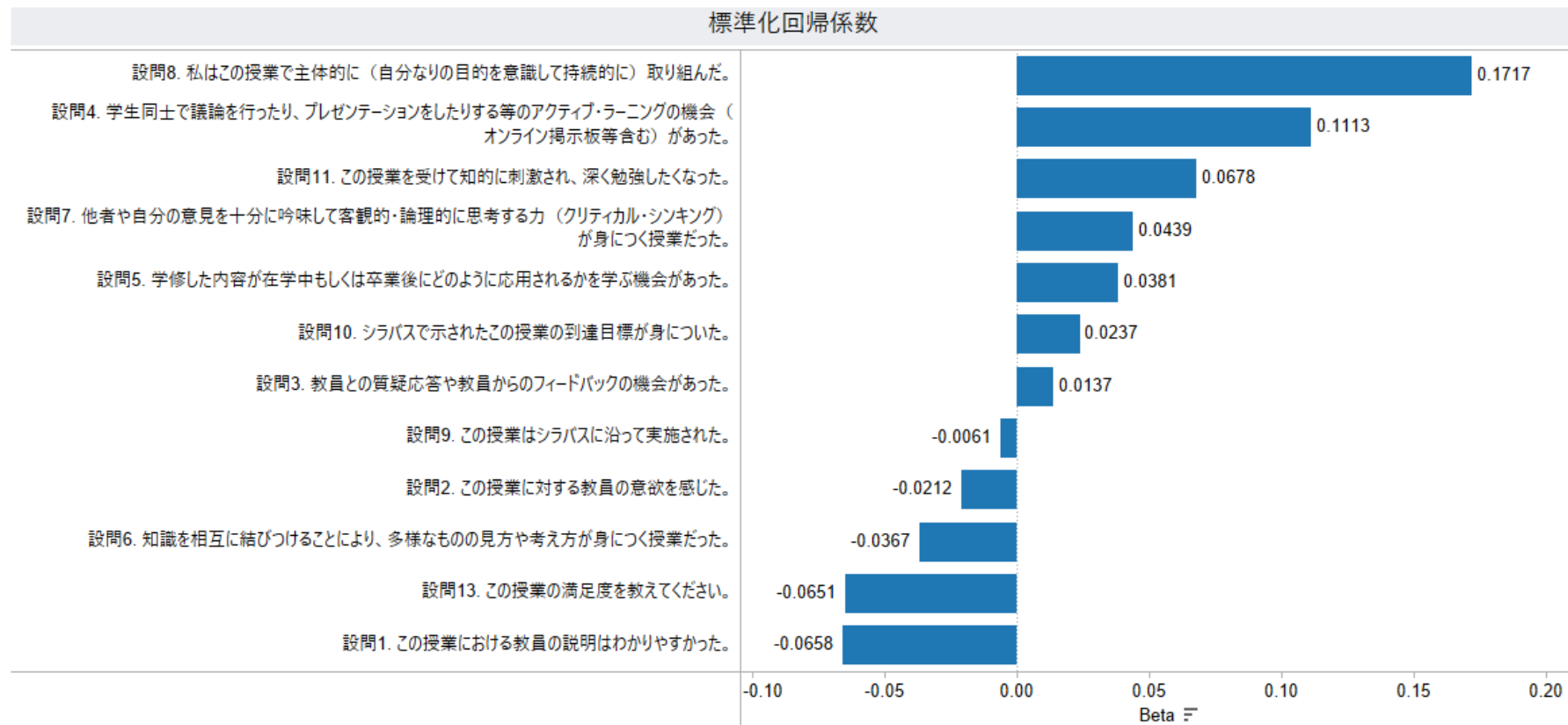
1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



設問8「主体的な取り組み」が5点だと授業外学修時間がやや長い。
設問8が4点だと、設問4「ALの機会」が3点以上で授業外学修時間がやや長い。



決定木分析と同様、設問8・設問4の影響力が大きい。



授業外学修時間を増やすための取り組み例

1. 学習環境・教材整備

- オンデマンド教材や補助資料を充実させ、授業外でも繰り返し学べる環境を提供する
- 反転学修を導入し、事前学習（教材閲覧や演習）を授業外で行う仕組みを設計する

2. 動機づけ・目標設定

- 授業外学修が小テストや成績に反映されることを明示して、取り組む意欲を高める
- 「次回授業までにここまで進める」といった短期目標を提示し、学習習慣を支援する

3. ピア・コミュニティ

- 学修パートナー制度や小グループ活動を導入し、互いに学び合う仕組みをつくる
- オンライン掲示板やチャットを整備し、授業外でも質問や意見交換を活性化する

4. フィードバック・指導

- 学習ログや課題提出状況をもとに進捗をフィードバックし、改善点を具体的に示す
- 授業外課題への簡潔なコメントを返し、「やったことが評価されている」実感を与える

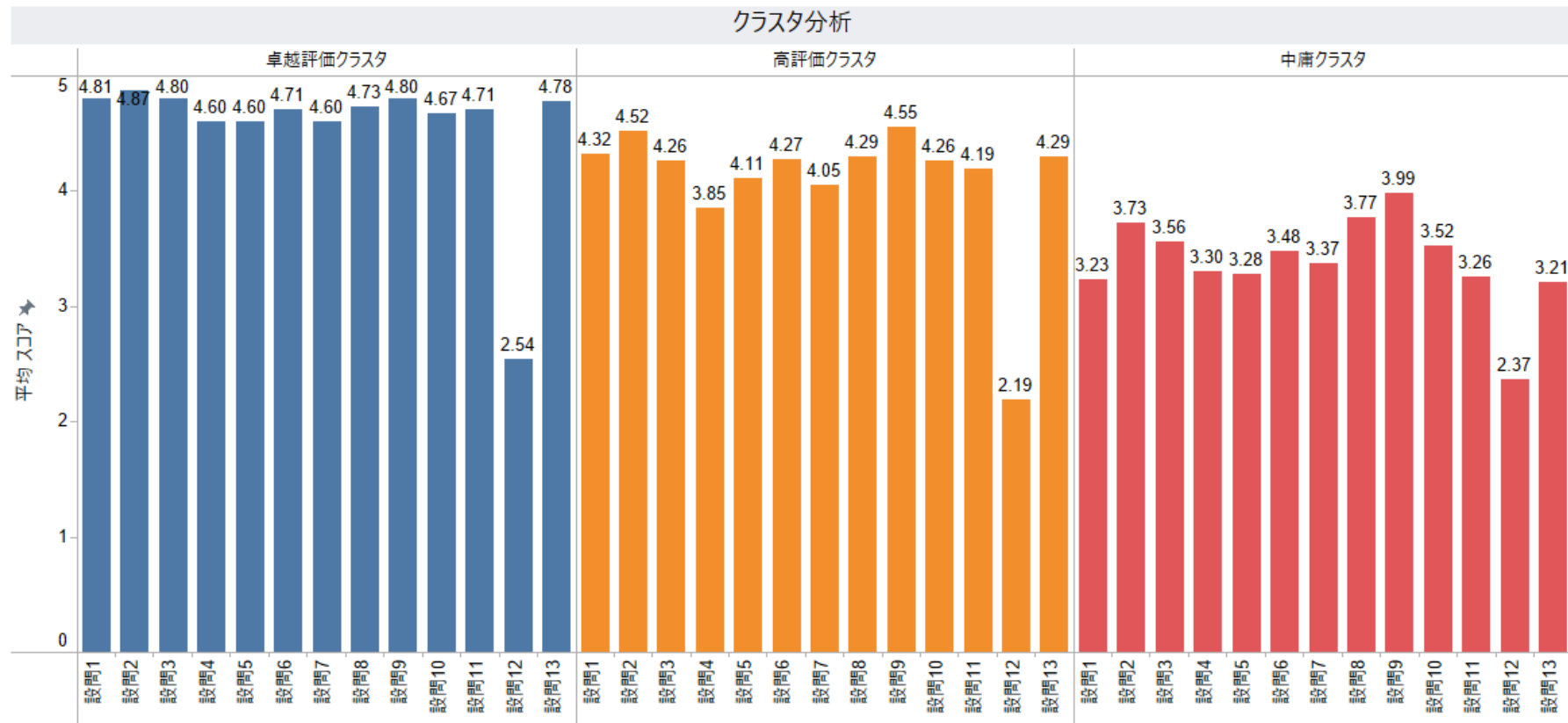
5. 支援制度・インセンティブ

- TAや教員による学習サポートデスクを設置し、授業外でも気軽に質問できるようにする
- 課題達成や学習時間を可視化してバッジや表彰を行い、モチベーションを高める

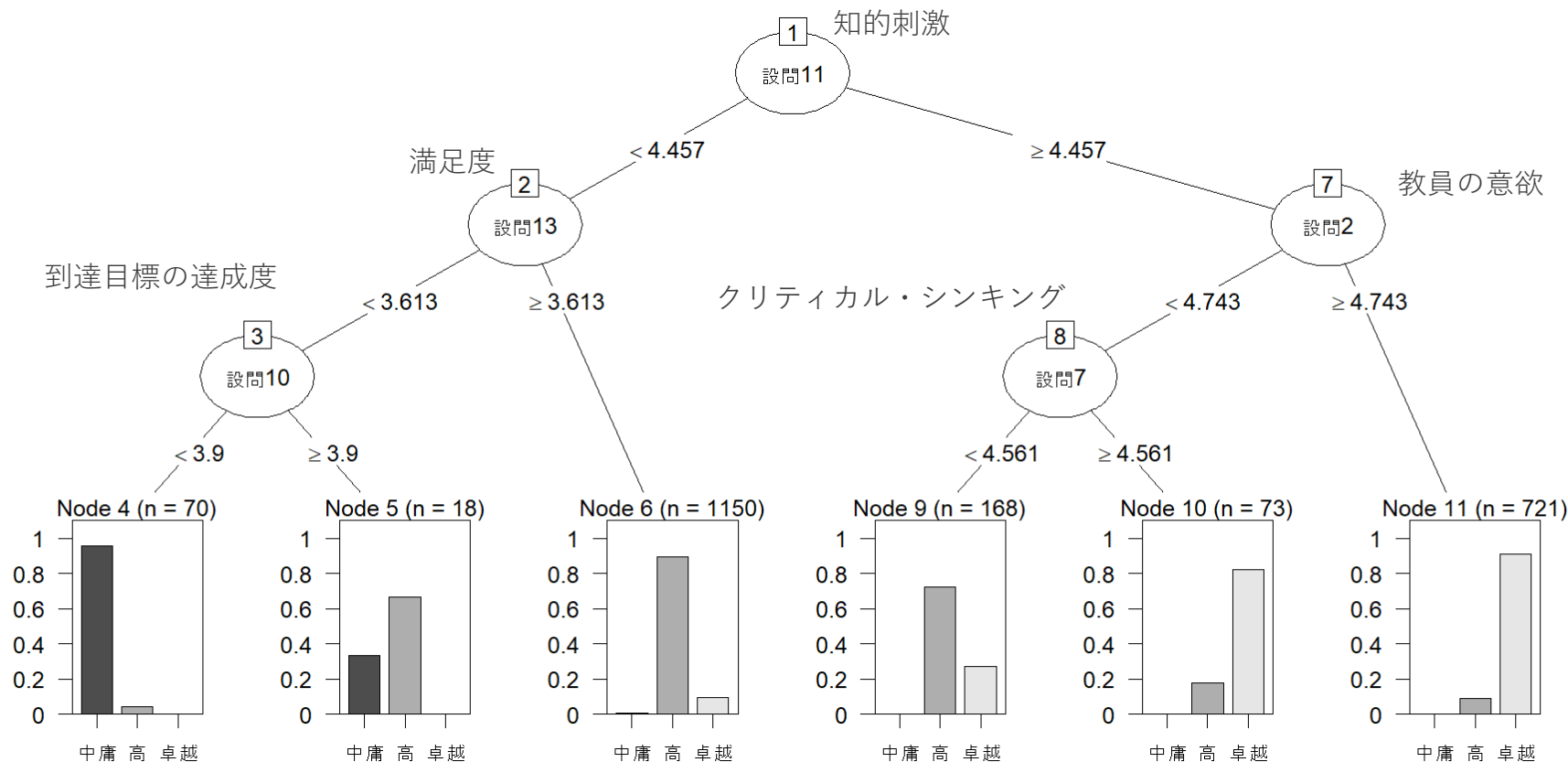
1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



「卓越評価」「高評価」「中庸」の3クラスに分類。



設問11と、問2または設問7が高い授業は「卓越評価クラス」に分類されやすい。
 設問11、設問13、設問10が低い授業は「中庸クラス」に分類されやすい。



1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



総合サマリー

- 位置づけ
 - － 中心指標は設問13（満足度）・設問10（到達度）・設問12（授業外学修時間）。
 - － 単純集計で分布の形を押さえ、モデル結果と突き合わせて読む。
- 分析枠組み
 - － 単純集計・決定木・重回帰・クラスタを併用し、視点の重なりを確認。
 - － 可視化（分岐）と係数（方向）で一致点を重視し、解釈を安定化。
- 満足度の鍵（設問13）
 - － 設問1（説明のわかりやすさ）と設問11（知的刺激）の関与が繰り返し示され、要点が明確。
 - － 二設問の水準差が授業間の違いに反映されることが確認できる。
- 到達度の鍵（設問10）
 - － 設問11（知的刺激）・設問8（主体性）・設問9（シラバス）の組合せで水準差が整理可能。
 - － 代替パスの存在が示され、単一要因でなく構造で把握する。
- 学修時間の鍵（設問12）
 - － 設問8（主体性）を軸に設問4（AL機会）が補助的に関係し、分布の尾に影響。
 - － 中央集中の分布は維持されつつ、条件で尾部が伸びやすい。

満足度（設問13）の総合示唆

- 総観
 - － 全体は高めに分布しつつ授業差が残存。分布とモデルの示す方向は一致。
 - － 高満足の授業では関連設問がそろそろ傾向が確認されている。
- 関連①：設問1（説明のわかりやすさ）
 - － 決定木で第一分岐として現れ、満足度の層分けに寄与する。
 - － 重回帰でも正方向が確認され、役割が一貫して示される。
- 関連②：設問11（知的刺激）
 - － 設問1に近い授業間で差を広げる要素として機能する。
 - － 重回帰でも正方向の関与が確認され、解釈が安定。
- 方法間の整合
 - － 分岐規則と係数の方向が一致し、読みの芯が明確。
 - － 異なる手法でも主要項目の位置づけは変わらない。
- まとめ
 - － 設問1×設問11の二軸で授業位置を把握し、差の説明が容易。
 - － 2設問の水準差を優先的に点検する枠組みが妥当。

到達度（Q10）の総合示唆

- 総観
 - － 満足度より広がりが大きく、授業差が整理対象として明確。
 - － 単一要因ではなく、組合せで水準差が説明される構図。
- 関連①：設問11（知的刺激）
 - － 決定木で高水準枝に集約、重回帰でも正方向が確認。
 - － 学びの深まりに關与する要素として位置づけられる。
- 関連②：設問8（主体性）・設問9（シラバス）
 - － 設問8は推進的、設問9は基礎水準の維持に關与する役割。
 - － 3設問の組合せで結果が安定しやすいことが示される。
- 代替経路
 - － 設問8が低くても設問9が高ければ相対的に水準を維持。
 - － 条件により複数の経路が成立する点が確認できる。
- まとめ
 - － 設問11×設問8×設問9で到達度を体系化し、授業差を把握。
 - － 設計・運営の論点を3点で点検するのが有効。

授業外学修時間（設問12）の総合示唆

- 総観
 - － 分布は中央集中で長時間層は限定的。経年的な大きな変化は少ない。
 - － 平均でなく分位点を併用すると授業差の把握が容易。
- 関連①：設問8（主体性）
 - － 設問8が高い授業で学修時間がやや長く分布する傾向。
 - － 重回帰でも正方向が確認され、方向の一致が見られる。
- 関連②：設問4（AL機会）
 - － 設問8（主体性）が中位でも設問4が一定以上で尾部が伸びやすい。
 - － 係数の方向も一致し、補助的関与が示されている。
- 方法間の整合
 - － 決定木と重回帰で同じ方向を示し、解釈が安定。
 - － 条件差が尾の形に反映される読み替えが可能。
- まとめ
 - － 設問8（主体性）を軸、設問4（AL機会）を補助とする枠組みで時間差を説明。
 - － 中央集中の中で尾部の違いを見る視点が有効。

授業クラスタ（3群）の読み替え

- 区分
 - － 授業は「卓越評価クラスタ」「高評価クラスタ」「中庸クラスタ」に分類される。
 - － 3群構成により全体像の共有と比較が容易になる。
- 卓越評価クラスタの特徴
 - － 設問11（知的刺激）が高く、設問2（教員の意欲）または設問7（CT）も高い。
 - － 満足度・到達度も高水準に位置づく傾向が確認される。
- 高評価クラスタの特徴
 - － 多くの設問が高めで安定し、全体のバランスが良好。
 - － 卓越群との差は中核項目の高さと一貫性に現れる。
- 中庸クラスタの特徴
 - － 設問11（知的刺激）・設問13（満足度）・設問10（到達度）が相対的に低位で現れる傾向。
 - － 設問側のプロファイル差が結果に反映されている。
- 位置づけ
 - － 3群のプロフィール差を前提に全体像を整理可能。
 - － 以降の検討や共有のための共通の土台となる。

1. アンケート概要
2. 単純集計結果
3. 自由記述分析
4. 満足度分析
5. 到達度分析
6. 授業外学修時間分析
7. 授業クラスタ分析
8. 総合的な示唆
9. 改善策まとめ



すぐに実装できる5つのアクション

1. 目標と評価の可視化

- 第1回にルーズリックと合格例（期待水準）を配布。
- 各回冒頭で到達目標・評価観点・提出物の期待レベルを掲示。

2. 資料設計の軽量化

- スライドは「1枚1メッセージ」+ A4要点レジュメを添付。
- 専門用語は「背景→定義→使用例」で段階的に導入。

3. 双方向スロットの固定化

- 15分ごとに「問い→ペア/小グループ→共有」を固定運用。
- 基礎問いと発展問いの2段階を用意し、参加しやすさを高める。

4. 締切と課題運用の平準化

- 締切は原則「授業日+7日 23:59」、**他科目の課題・試験スケジュールを考慮**して設定。
- 中間・期末の2週間は新規課題を避ける／分量を半減し、学期カレンダーで一括公開。

5. 迅速なフィードバックとキャッチアップ

- 提出後72時間以内に代表例+共通講評を掲示。
- 欠席者向けに資料・補助課題・再提出条件をひとまとめで提示。

満足度の向上のために

1. **資料共有／学習サポート**（復習しやすい環境を整えることで、説明の「見通し」が良くなり、理解が深まる）
 - 授業後すぐにスライド配布：授業終了後24時間以内に資料をLMSに掲載し、復習に使えるようにする。
 - 補助レジュメの配布：要点をA4一枚にまとめ、授業中の板書や説明と対応させて配布する。
2. **図解／スライド**（抽象的な定義や関係を目で見える形にし、「要するに」で一行にまとめることで混乱を防ぐ）
 - 見取り図を最初に提示：今日の流れを1枚目に示し、各章で現在地を表示。
 - 図＋一言で定義を整理：難しい概念は図解と「要するに○○」の一行で簡潔に伝える。
3. **段階的説明**（背景→定義→例→応用の流れを踏むことで、学生はどこでつまづいているかを把握しやすくなる）
 - 型を統一：説明は「背景→定義→例→応用」の順に進め、筋道を明示する。
 - 小演習を挿入：例の直後に1～2分の確認問題やペア相談を入れ、理解度をその場で確認する。
4. **課題・評価の明確化**（「どう工夫すればより良くできるか」を考えるきっかけになり、挑戦意欲が生まれる）
 - ルーブリック提示：課題に対して「評価観点（例：内容・根拠・構成・独自性）」を事前に明示する。
 - 見本を提示：過去の合格レベルのサンプルを簡単に示し、到達水準を具体的に共有する。
5. **フィードバックの工夫**（「自分の考えを他と比較する」刺激になり、新しい視点や学び直しのきっかけになる）
 - 迅速な全体講評：提出後72時間以内に、共通の強み・弱みをまとめた講評をLMSに掲載する。
 - 代表例を共有：良い解答と改善が必要な解答を1つずつ紹介し、次に生かせるポイントを示す。

到達目標の達成度の向上のために

1. 授業進行・シラバス遵守

- シラバスに沿った計画的進行：毎回の授業がシラバス通りに展開され、学生は安心して学びを積み上げる。
- 一貫したテーマ提示：授業全体を通して統一されたテーマや流れを維持し、学びの方向性を明確化する。

2. 主体的な学び

- 問いかけによる動機づけ：授業中の質問や課題を工夫し、学生が自ら調べたり意見を持つきっかけを提供。
- リアクションペーパーの工夫：魅力的なお題設定で、学生が楽しみながら積極的に取り組むようになる。

3. 知的刺激

- 新しい視点の導入：既存の知識に加え、別の切り口や他分野との関連を示して、学生の視野を広げる。
- 発見や気づきの場を設計：意外性のある事例や比較を提示し、学生に「考えさせられる」経験を提供する。

4. 説明のわかりやすさ

- 整理された説明構成：複雑な内容も「背景→定義→例→応用」の順で整理し、理解の筋道を示す。
- 噛み砕いた表現：専門用語を平易な言葉や比喩に置き換え、学生がつまづかずに理解できるようにする。

5. 課題・フィードバック

- 実践的な課題設計：授業内容を使って考える課題を出し、理解を定着させる。
- 具体的なフィードバック：代表例や改善点を示し、次回への成長につながるアドバイスを行う。

授業外学修時間を増やすための取り組み例

1. 学習環境・教材整備

- オンデマンド教材や補助資料を充実させ、授業外でも繰り返し学べる環境を提供する
- 反転学修を導入し、事前学習（教材閲覧や演習）を授業外で行う仕組みを設計する

2. 動機づけ・目標設定

- 授業外学修が小テストや成績に反映されることを明示して、取り組む意欲を高める
- 「次回授業までにここまで進める」といった短期目標を提示し、学習習慣を支援する

3. ピア・コミュニティ

- 学修パートナー制度や小グループ活動を導入し、互いに学び合う仕組みをつくる
- オンライン掲示板やチャットを整備し、授業外でも質問や意見交換を活性化する

4. フィードバック・指導

- 学習ログや課題提出状況をもとに進捗をフィードバックし、改善点を具体的に示す
- 授業外課題への簡潔なコメントを返し、「やったことが評価されている」実感を与える

5. 支援制度・インセンティブ

- TAや教員による学習サポートデスクを設置し、授業外でも気軽に質問できるようにする
- 課題達成や学習時間を可視化してバッジや表彰を行い、モチベーションを高める



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

FOR OTHERS, WITH OTHERS